

ひ がた 干潟で観察

Point1 ひ がた 干潟にすわって考える

P.42でも説明しましたように、大阪府にも小さいながら干潟が存在します。一度は、^{ひ がた}干潟まで足を運んで、^{ひ がた}鳥やカニを観察しながら、干潟の成り立ちや役割、その大切さについて考えてみましょう。

例えば、春から秋までの間で天気の良い日^{せんなんし おのさどがわ}に、泉南市の男里川の河口^{はまべ}に行つて、浜^{はまべ}辺にすわって生きものをさがします。できれば、8倍程度の^{そうがんきょう}双眼鏡を持っていきましょう。

まずは、^{ひ がた}近くの干潟をのぞいてみましょう。人の^{けはい}気配を感じてすばやく穴^{かく}に隠れたカニたちが、^{けいかい}警戒しながらも少し

ずつ穴から出てきます。よくみると、いろいろな種類^{いよう}がいるようです。片方のハサミだけが異様に大きいハクセンシオマネキに目がいきませんが、気がつくと周り一面カニだらけになっていて驚いてしまいます。アシハラガニが多いようですが、水っぼい場所はヤマトオサガニが好んで集まっています。アカテガニやハマガニ、カクベンケイガニなどもみられます。^{ひ がた}干潟の周囲では、ウモレベンケイガニという珍しい種類^{めずら}も最近みつかっています。

カニにまじって変わった形の魚がいることにも気がつきますが、これは大きな眼をしたトビハゼです。



179. 男里川の河口^{おのさとがわ}



180. ハクセンシオマネキ



181. トビハゼ

今度は、少し遠いところを^{そうがんきょう}双眼鏡でのぞいてみます。コチドリやシロチドリ、トウネン、ハマシギ、アオアシシギ、キアシシギ、チュウシャクシギ、ハクセキレイなど多くの鳥が歩きながらエサをとっています。多くの鳥の群れにまじって、キリアイもみられるかもしれません。エサはカニやゴカイなどですが、^{ひがた}干潟はたくさんのエサに^{めく}恵まれた場所です。シギやチドリの仲間のほとんどは、^{ひがた}干潟が無いと生きていけない鳥たちで、うれしいことに、人工的につくられた^{なんこうや}南港野鳥園^{ちようえん}にもたくさん集まってくるようになりました。でも、これらの鳥たちはよく似た姿をしているものが多いので、^{ずかん}図鑑をみても区別するには経験が必要です。

鳥たちの多く集まる場所には、時にはハヤブサなどの^{もうきんるい}猛禽類がエサを求めて飛んできます。この場合のエサは、シギやチドリなどの鳥たちということになります。このような「食べる、食べられる」の関係のつながりを^{しょくもつれん さ}食物連鎖^{せいたい}といいますが、^{ひがた}干潟ではこの関係を目の前でみることができます。少し難しいですが「生態系」を理解するよいてがかりなので、ぜひ考えてみて下さい。



182	183	184
185	186	187

182. トウネン
183. シロチドリ
184. キリアイ
185. キアシシギ
186. ハヤブサ
187. コチドリ